

## めあて・まとめ・振り返り

～ 「問い」が生まれる授業の骨子となるもの～

### 身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示

「問い」が生まれる授業の実現には、導入段階における「めあて」の設定や終末における「まとめ」「振り返り」が重要になってきます。その機能や重要性を十分理解し、確実に実施するとともに、常に工夫を凝らして実践を積み重ねていきましょう。

#### こんな授業になっていませんか

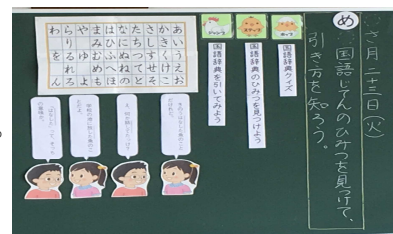
- △指導書の「ねらい」がそのまま「めあて」として示されている。
- △「めあて」が教師から一方的に示されることがある。

#### ○「めあて」を提示する目的と機能

児童生徒が学習の見通しをもって授業に臨み、主体的に学習していくためにも「めあて」の設定は重要です。身に付けさせたい力（指導事項）を踏まえた「めあて」の設定を行いましょう。しかし、必ずしも「めあて」にふさわしい内容になっていない場合があります。例えば、指導書の「ねらい」がそのまま「めあて」として提示されていたり、児童生徒からの「問い」や「つぶやき」を生かすことなく、教師から一方的に「めあて」が示されたりする場合があります。以下の点について留意し、「めあて」の質を高めていきましょう。

#### 【「めあて」の設定】

- めあては、学習のねらいに迫る内容がふさわしい。
- めあては、思考が焦点化される内容がふさわしい。
- めあては、子供の「問い」やつぶやきをもとに表現される文言がふさわしい。
- めあては、仲間との対話を通して解決が図れる内容がふさわしい。
- めあては、授業によっては導入以外で提示されることがある。



#### 【めあての例】

指導書等にかかれたねらいがそのまま板書された場合

話す相手や状況に応じて、聞き手にとっての分かりやすい話し方について考え、分かりやすく話すことができる。（中学校国語）

児童生徒の視点に立った「めあて」の場合

分かりやすい伝え方のコツを考え、相手に分かりやすく説明しよう。（中学校国語）

### 「めあて」に正対した「まとめ」「振り返り」の確実な実施

授業の終末における「まとめ」「振り返り」については、児童生徒が授業で何がわかったか、何ができるようになったかなどを確認するとともに、自身の学びの過程を振り返り、学習の価値を自覚させることで、新たな「問い」が生み出されるなど、大変重要な場面だと考えています。授業の終末の充実に向けて、「まとめ」「振り返り」について日々工夫を重ねながら実践していきましょう。

#### こんな授業になっていませんか

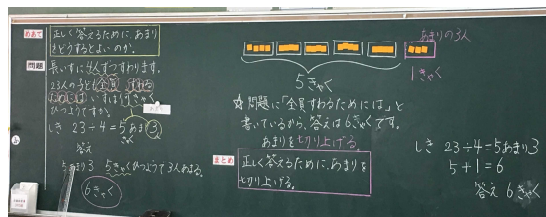
- △「まとめ」が「めあて」に正対していない場合がある。
- △「まとめ」「振り返り」の重要性について認識が十分ではないことがある。また、タイムマネジメントへの意識が薄く、「時間がある時に行えばいい」という意識にとどまっている場合がある。

#### ○「まとめ」のポイント

「まとめ」は本時の「めあて」や学習課題に対して、今日の授業で「何を学んだか」を明確にする活動です。そのため「まとめ」と「めあて」は基本的には正対することが大切です。よりよい「まとめ」にするためにも板書された内容や児童生徒の言葉を生かして「まとめ」を行います。授業において「まとめ」につながる児童生徒の考えや気づきを引き出す発問をしたり、引き出した考えなどを板書したりするなど、指導の工夫が大切です。

## 【まとめについて】

まとめは、基本的に「振り返り」と分けて考える。  
 まとめは、基本的に「めあて」に正対する内容がふさわしい。  
 まとめは、子供の声をもとにまとめることがふさわしい。  
 まとめは、授業によっては「振り返り」の中で行う場合がある。



## 【「めあて」に正対した「まとめ」（例）】

### めあて

地図から実際の距離を求めるにはどうしたらよいか、その方法を考えよう。（小学校算数）

### まとめ

実際の距離は、縮尺を利用して求めることができる。（小学校算数）

正対する

## ○「振り返り」の意義と指導のポイント

授業を通して、児童生徒に「何が分かるようになったのか」「どんな変容があったのか」「もっと考えたいこと」などについて自覚させるためには「振り返り」活動を充実させることが大切です。そのためには子供自身に「振り返り」の意義を実感させ、授業を通して「振り返り」の習慣化を図る工夫、次時の授業への期待を高めることや家庭学習などへつなげることが必要です。

## 【小学校学習指導要領総則 第1章第3の1の(4)】

児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるよう工夫すること。（※中学校学習指導要領も同様）

## 【「振り返り」の意義】

- ◆ 解決方法や学んだことに自信をもったり、曖昧な点が明確になったりする。
- ◆ 自分の学び方の確立につながる。
- ◆ 学習内容の応用・発展の機会となる。
- ◆ 考え方や知識・技能等の学習内容の定着が図られる。
- ◆ 新たな「問い」をもつ機会となる。

## 【「振り返り」の指導ポイント】

- ◆ 「振り返り」の目的を子供たちに伝えること。
- ◆ 「振り返り」の時間をしっかり確保し、習慣化すること。
- ◆ 「めあて」と「振り返り」がつながるように、振り返る視点を児童生徒に示すこと。
- ◆ 「振り返り」につながる板書・ノートを工夫すること。

## 【振り返りの視点（例）】

習得	・ 学びの変容を振り返る	「〇〇が分かった。」 「〇〇ができるようになった。」 【例】 「登場人物の気持ちを読み取るには、その言葉や行動に着目すれば読み取れることが分かった。」
	・ 学びの過程や結果を振り返る	「〇〇することが分かった。」 「〇〇することができるようになった。」 【例】 「いくつかの資料を比較して読むことで、江戸時代の農民と武士の生活の様子が分かった。」
	・ 交流を振り返る	「〇〇な考え方もあるんだ。」 「Aさんはなぜ、こう考えたのだろう。」（「問い」） 【例】 「最初はAさんの考えに反対だったが、話し合いを通して、Aさんの考えが少し理解できるようになった。しかし、自分は〇〇なので～」 「（サーブは）上から打つ方が絶対いいと思っていたけれど、作戦タイムを通して、いろいろな打ち方を試してみようと思った。」
活用 探究	・ 活用問題に取り組む ・ 他の単元・教科で活用する ・ 次につなげる	「〇〇でもできるかやってみよう。」 「もっと〇〇について考えたい。」 「もし〇〇だったらどうかな。」（「問い」） 【例】 「あさがおの育て方を勉強したので、今度は家でひまわりを育ててみたいと思いました。」 「お礼状の書き方を学んだので、職場体験でお世話になった職場の方にお礼状を書いてみたい。」